SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

（公社）栃木県サッカー協会事務局
〒320−0857　宇都宮市鶴田2-2-10
鈴運メンテック㈱ビル2F
TEL　028-688-8411 / FAX　028-688-8400
URL　http://www.tfa.or.jp/

vol.92
平成30年３月30日発行

contents

② 2017年度各種表彰受賞者
③ アクションプラン
④ 栃木SC
⑤ ～本気力（マジカラ）～2018シーズンに向けて
⑮ 高校連盟より
⑮ 第41回全日本少年サッカー大会栃木県大会
⑯ 第46回県少年サッカー選手権大会
⑰ 第41回全日本少年サッカー大会／JA全農杯第35回県少年サッカー新人大会
⑱ 第11回関東シニア選手権大会（40歳以上）戦績表
⑲ 第18回全日本O−60サッカー大会関東予選会
⑳ 第8回全日本O−70サッカーオープン大会関東予選会
㉑ サッカー巡回指導～JFAとトヨタの新プロジェクト～
㉒ サッカー協会とトヨタとの巡回の協働事業
㉓ キッズサッカーフェスティバルグラスツール2017日光
㉔ 関東上位狙う選抜チーム／皇后杯サッカーで熱戦展開
㉕ 手塚さんがJFA理事に／新栃木SCレディース発足／『栃木に恩返しを！』
㉖「2017年度1級審判員昇級審査」
㉗ 審判活動の魅力について
㉘ サッカー2級審判インストラクター合格
㉙『試合前に準備したいこと』
㉚ 第41回全日本少年サッカー大会に参加して
㉛ オセアニアサッカー事情
㉜ レフェリー・ハートフルコミュニケーション
㉝ 第13回栃木県フットボールカンファレンスについて
㉞ 2017年度賛助会員ご芳名
㉟ 賛助会員申込書
㊱ 賛助会員募集のご案内

2017年度
公益社団法人栃木県サッカー協会
表彰式

※写真　2018年2月25日　ホテルニューイタヤ

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

2017年度公益社団法人栃木県サッカー協会　各種表彰受賞者

1．公益財団法人日本サッカー協会　功労賞（伝達）

石　﨑　忠　利	公益社団法人栃木県サッカー協会	前会長
岩　原　克　彦	公益社団法人栃木県サッカー協会	前副会長
室　井　和比古	公益社団法人栃木県サッカー協会	前副会長

2．2017年度　（第45回）　太郎賞受賞者

４　種	阿　部　敢　汰	栃木サッカークラブ　ジュニア
	濱　野　加　成	栃木サッカークラブ　ジュニア
	村　上　竜　規	ＦＣ中村
	松　本　剛　季	ＦＣ　ＶＡＬＯＮ
	秋　草　公　平	御厨フットボールクラブ
	佐　藤　麻　陽	ヴェルフェたかはら那須Ｕ-12
３　種	吉　野　陽　翔	栃木サッカークラブ　ジュニアユース
	藤　原　　隼	栃木サッカークラブ　ジュニアユース
	渡　邉　颯　真	さくら市立氏家中学校
２　種	松　井　蓮　之	矢板中央高等学校
	郡　司　侑　弥	栃木県立真岡高等学校
	早乙女　達　海	栃木サッカークラブ　ユース
女　子	長谷川　七　夏	栃木サッカークラブ　レディース
	藤　生　理　瑚	栃木サッカークラブ　レディース

3．2017年度　（第30回）　森山賞受賞者

柿　沢　知　宏	栃木教員フットボールクラブ　監督
	第24回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会　ベスト４
上　野　　哲	小山工業高等専門学校サッカー部　監督
	第50回全国高等専門学校サッカー選手権大会　ベスト８
	第46回関東高等専門学校サッカー選手権大会　優勝
高　橋　健　二	矢板中央高等学校サッカー部　監督
	第96回全国高校サッカー選手権大会　第３位
犬　丸　圭　吾	栃木サッカークラブレディース　監督
	第22回全日本女子ユース（U-15）サッカー選手権大会　第３位
丸　山　政　光	とち丸シニアサッカークラブ　監督
	第12回関東シニア（60歳以上）サッカー選手権大会　第３位
君　嶋　渡紀子	矢板中央高等学校サッカー部　監督
	第４回全日本ユース（U-18）フットサル大会　優勝
	第４回全日本ユース（U-18）フットサル大会関東大会　優勝
三　柴　佑　太	プログレッソ佐野ＦＣ　監督
	第23回全日本ユース（U-15）フットサル大会関東大会　第３位
久保田　圭　一	栃木サッカークラブレディース　監督
	第８回全日本女子ユース（U-15）フットサル大会関東大会　準優勝

4．2017年度（第35回）　協会長賞受賞者

【団体】

栃木教員フットボールクラブ	第24回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会　ベスト４
小山工業高等専門学校サッカー部	第50回全国高等専門学校サッカー選手権大会　ベスト８
	第46回関東高等専門学校サッカー選手権大会　優勝
矢板中央高等学校サッカー部	第96回全国高校サッカー選手権大会　第３位
	第４回全日本ユース（U-18）フットサル大会　優勝
	第４回全日本ユース（U-18）フットサル大会関東大会　優勝
栃木サッカークラブレディース	第22回全日本女子ユース（U-15）サッカー選手権大会　第３位
	第８回全日本女子ユース（U-15）フットサル大会関東大会　準優勝
とち丸シニアサッカークラブ	第12回関東シニア（60歳以上）サッカー選手権大会　第３位
プログレッソ佐野ＦＣ	第23回全日本ユース（U-15）フットサル大会関東大会　第３位

【個人】

岩　原　克　彦	永年にわたり本県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
室　井　和比古	永年にわたり本県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
渡　辺　浩　志	永年にわたり本県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
益　子　道　昭	永年にわたり本県少年サッカー連盟の役員として、連盟の発展に貢献された。

5．2017年度　特別功労賞

石　﨑　忠　利	永年にわたり本県サッカー協会の会長並びに役員として、協会の発展に貢献された。

アクションプラン

公益社団法人
栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人
栃木県サッカー協会のビジョン

1．栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2．競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3．フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み（TFAミッションファイル）

≪10年後の達成目標（TFAゴールプラン2022）≫

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 ＜2017年度＞
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間（サッカーファミリー）のうち、**プレーヤー・審判員・指導者が4万人（県民の2%）**になる。	1．第1種登録チームの選手登録数の拡大 2．U13～18年代の選手登録数の拡大 3．女子の選手登録数の拡大 4．フットサル選手登録数の拡大	サッカー選手登録 16,683人 フットサル登録 446人 審判員　5,109人 指導者　2,322人 計　24,560人 県民人口 1,961,963人 県民の　1.25%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が**「日本代表」として5名以上、「Jリーガー」として20名以上**活躍する。	1．代表チーム強化 2．選手の強化・育成 3．指導者の育成	日本代表　0人 女子日本代表　2人 Jリーガー　20人
組織の確立	（公社）栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、**全国ランキングトップ10入り**する。	1．組織内の連携強化 2．組織基盤の確立 3．実施事業の充実	全国ランキング 第26位
J1チームの創設・活用	**栃木SCがJ1に昇格**し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1．連携・共存体制の確立 2．サポート体制の確立 3．協同連携事業の実施	J3所属栃木SC
サッカー施設の充実	**新たなスタジアムの完成**と県内の**人工芝サッカー場が15面に増加**する。	1．対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市　1面 ・宇都宮市　3面 ・矢板市　1面 ・大田原市　1面 ・那須塩原市　2面 ・日光市　2面 ・佐野市　1面 ・小山市　1面 ・真岡市　1面 ・さくら市　1面 計　13面
2022年栃木国体での大活躍	**栃木国体において「総合優勝」する**	1．代表チーム強化 2．選手の強化・育成 3．指導者の育成	

2018年度のTFA活動目標

(1)アクションプランの遂行＜各連盟・委員会のプランの遂行＞
(2)サッカーファミリーの拡大＜プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す＞
(3)各種別の本県代表チームの活躍＜全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す＞
(4)福井国体でベスト4以上を目指す。
(5)仮称「とちぎフットボールセンターの整備構想」の具現化
(6)J2栃木SC・関東リーグ　栃木ウーヴァFC及びヴェルフェたかはら那須との連携・協力体制の確立
(7)サッカー施設の拡充＜人工芝サッカー場の1面増設＞
(8)県内各地区サッカー協会との連携・協力
(9)2022年栃木国体「総合優勝」に向けた5か年行動計画の推進
(10)財政の健全化＜新たな収入源の確保＞

1．第１種委員会：社会人連盟

2018年度の活動目標	・県内リーグチーム強化 ・各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・Ｊチーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・栃木国体に向け指導者グループ作成への取り組み ・県１部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・クラブ関東大会の円滑な運営に向けた取り組み ・トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み ・登録チーム数を増やすための取り組み ・登録チームを継続するための取り組み ・公式記録作成者の育成 ・O-35カテゴリー新規事業への取り組み
	＜数値目標＞ 事業及び委員会への出席率をUP（60%へUP） 登録チーム数をUP（2019年度登録時に3チーム増やす）
	＜スローガン＞ ***チーム社会人（１種）の取り組み***
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	・県内大会の活性化 ・各委員会（総務・審判・技術・競技）の確立（適数人員） ・Jチーム・KSLチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・栃木国体に向け役員の育成と質の向上を目標に大会運営を行う ・MC資格保有役員は関東リーグマッチコミッショーナを１試合以上担当する。 ・新規チーム数を増やすための募集・広報活動 ・登録チーム継続のためのサポート活動 ・公式記録作成研修会の実施 ・O-35の新規大会の提案
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・第25回　全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会 ・県内トーナメント大会 ・各委員会メンバーの適正化 ・J2・KSLとの連携・協力

2．第２種委員会：高校連盟

2018年度の活動目標	・高校サッカーの活性化（男女） ・高校サッカー部員の増加（男女） ・本県代表校の活躍（男女） ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
	＜数値目標＞ 部員数　3,000人　　関東大会・全国大会優勝
	＜スローガン＞ ***高校サッカーを盛り上げよう！***

2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	・危機管理体制の充実 ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・技術・審判の質の向上 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 ・本県代表の関東・全国大会入賞及び関東プリンスへの参入 ・他種別との連携
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・技術・審判研修会及び講習会の開催 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・他種別との連携 ・ユース審判員の育成

3．第３種委員会：中学連盟

2018年度の活動目標	・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	＜数値目標＞ ①U-15リーグに90%以上のチームの参加 ②公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③M4による指導者講習会への参加率80%以上
	＜スローガン＞ ***より良い育成環境を目指して***
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直し ・指導者養成事業及び指導者研修 ・３種委員会の組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・U-15リーグ （１部リーグ・２部リーグ・３部リーグ・４部リーグ） ・公認Ａ級、Ｂ級、Ｃ級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会

4．第４種委員会：少年連盟

2018年度の活動目標	【総務】①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②各種事業事務の円滑な実施 【地域】①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②７地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 【技術】①選手育成を視点とした技術委員会の活動時期・内容変更の検討・検証の継続 ②関東・全国レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～ 【審判】①県と地区の連携強化 ②各地区審判員育成の基準の確率 【広報】①確な情報の迅速な提供 【ﾌｯﾄｻﾙ】①フットサル研修会の積極的開催 ②フットサル普及事業への積極的協力 【ｷｯｽﾞ】①県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立 ②県キッズ委員会との連携 【施設】①サッカー競技施設の積極的渉外 ②サッカー競技施設の整備、促進の提案 【女子】①女子選手の積極的育成 【事業】①指導者育成事業、選手育成事業の企画運営と各委員会事業への協力 【50周年誌準備特別委員会】 ①50周年誌作製に関わる企画・運営および資料収集・執筆、協力要請
	＜数値目標＞ 【地域】　各種申込書提出締め切り日の厳守 【技術】　関東選抜大会ベスト４以上 ４種技術委員のＢ級取得者を増やす

	【審判】４種委員会から３級インストラクターを１名以上輩出
	＜スローガン＞　【技術】　*プレーの質を追求しよう* 【審判】　*基本に忠実に* 【広報】　*正確・迅速*
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	【総務】①登録・移籍に関する事務の厳正 ②各種文書の発送、受信の厳正 ③選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営 【地域】①トップリーグ・地域リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア　技術強化委員会（県トレセン） イ　審判委員会（帯同審判実技講習会） ウ　フットサル委員会（県大会会場確保） エ　事業委員会（トレセンマッチデー、Ｄ級リフレッシュ講習会） オ　キッズ委員会（地域キッズフェスティバルの補助） カ　施設委員会（大会等で必要な会場の確保） 【技術】①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセン活動への指導協力 ③指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加 ・県技術委員のＢ級取得促進 【審判】①３級審判員研修会の充実 ②３級インストラクターの育成・輩出 ③ユース審判員・若手審判員の発掘と育成 【広報】①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報活動 【ﾌｯﾄｻﾙ】①少年サッカー連盟フットサル研修会の開催 ②県フットサル委員会との連携強化 【ｷｯｽﾞ】①キッズ年代の選手育成事業の開催 ②県・地区技術委員会、県キッズ委員会との連携 【女子】①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化 【事業】①販売事業 ②Ｄ級コーチリフレッシュ講習会協力 ③トレセンマッチデー運営 ④地域リーグ戦への協力 【50周年誌準備特別委員会】 ①50周年誌作製に関わる企画・運営および資料収集・執筆、協力要請
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	【地域】①地域委員会の定期的開催（１２回開催） ②トップリーグ・地域リーグの運営 ※新人大会の結果を受けた前期リーグの編成 ・前期リーグは、関東大会栃木県大会の予選を兼ねる。 ※前期リーグ、関東大会予選の結果を受けた後期リーグの編成 ・後期リーグは、全日本大会栃木県大会の予選を兼ねる。 ③各種県大会の運営 ④地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する ⑤他の委員会への協力 ⑥地区の理事会の活性化 【技術】①地区トレセン活動の活性化 ・トレセンマッチデーから県トレセンへ推薦 ②県大会での優秀選手選出 ③関東トレセンマッチデー・MTMトレセンマッチ・フ　ットボール・フューチャー・プログラム等での他県の選手のレベル・戦術分析と本県選手のレベルアッププログラムの編纂

	【審判】①審判研修会を計画的に実施する。 ・ルール講習会（指導者・帯同審判員） ・実技研修会（帯同審判員） ・実技指導者研修会（各地区３級審判員） ・３級審判員研修会（３級審判員のうち希望者） ②異なるカテゴリーへの審判員等を積極的に派遣する。 ・県民体育大会（１種） ・高校サッカー選手権大会（２種） ・下野杯（３種） ③他種別との連携を図り、ユース審判員や若手審判員を各種大会で積極的に割り当てる。 【ｷｯｽﾞ】①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-９） ④地区主催キッズリーダー講習会

５．女子委員会：女子連盟

2018年度の活動目標	・トレセン制度の充実・強化 ・競技人口の拡大 ・指導者の育成 ・女性審判、ユース審判の育成 ・JFA普及コーディネーターの活用
	＜数値目標＞ ・マッチデー４回　４種県／地区トレ男子×U-13女子トレセン ・グラスルーツ２回 ・ワンデークリニック２回 ・審判トレセン２回
	＜スローガン＞ ***栃木からなでしこへ「未来へ繋げる」***
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	・U-15トレセン活動の充実・強化 学年別（U-13／14／15）のトレーニングで個のレベルアップを図り、JFAエリートプログラムやナショナルトレセンに繋げる。 ・U-18トレセン活動の充実・強化 国体成年女子選抜チームとの連携 ・国体成年女子選抜チームの強化 ・普及事業 グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。（例：JFAなでしこひろばの活用） ・審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・トレセン女子U-15／U-18 ・４種トレセンマッチデー ・グラスルーツ ・ガールズ・レディースフェスティバル ・審判トレセン

６．クラブユース連盟

2018年度の活動目標	・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上
	＜数値目標＞ 関東大会でのベスト8以上
	＜スローガン＞ ***未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）***
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト８までの帯同審判の向上 ・３種委員会の組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・各チームU-14の強化 ・帯同審判の講習会

7．シニア委員会：シニア連盟

2018年度の活動目標	・シニア連盟の組織化（各年代） ・未登録チーム・選手の協会登録強化（各年代） ・関東大会の大会運営 ・全国大会予選会の突破
	＜数値目標＞ 各年代（Over40・Over50・Over60・Over70）の全国大会出場
	＜スローガン＞ ***各年代での関東大会を突破し全国大会出場***
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・関東シニアサッカー選手権大会（O−60）の開催のための大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（O−40, O−50, O−60）５月・８月９月 ・シニアサッカーリーグ（O−40, O−50, O−60）４月～３月 ・関東シニアサッカー選手権大会（O−60）の開催　９月

8．技術強化委員会

2018年度の活動目標	・2022栃木国体＋10年を視野に入れた諸事業の検証・再実行 ・トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・栃木TSG(テクニカルスタディグループ)データ活用
	＜数値目標＞ 関東トレセン大会各種別Ａクラス入り
	＜スローガン＞ ***全県一致***
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・国体強化策の具現化 成年男子：栃木トップクラブの連携 女子：国体選抜チームの発足、栃木SCとの連携 小学年代、中学年代の女子選手の発掘・育成・強化 U13早生まれ及びU12県トレセンの強化（国体世代） ・トレセン改革 県トレセンの行い方の見直しと実践（より充実したものにするために） ・各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 県内Ｂ級コースの解説 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・　U−14トレセン海外遠征 ・　U−13・12県トレセン強化策 ・　地区トレセンの強化＝県内指導者の育成（情報の共有） カテゴリーを超えた連携

9．フットサル委員会：フットサル連盟

2018年度の活動目標	2017年度はU−18、U−15年代の大会で好成績をおさめたことにより、この年代の指導者がフットサルの重要性を認識してくれた年になったことは、フットサル委員会にとってはターニングポイントしなければならない時と認識させられた。この年代のサッカーの指導者との交流を深め、フットサルとサッカーの在り方等を協議していき、良い方向にもっていくことが重要となる。それが、本県のフットサルの普及にはつながるのではないかと考える。 さらにフットサルの普及・振興のために、フットサルイベントを企画して多くの方にフットサルに触れる機会を増やす、また、若い年代の技術の向上や試合の経験値をあげるためにクリニックの計画的実施をしたり、若手の指導者の育成など、中長期的な課題として今後の本県フットサルをより厚みのあるものとする必要がある。

	また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、フットサル委員会・連盟事業の多岐にわたるようになってきていることから、連盟組織の充実を図る時期にとなってきている。 大会会場が体育館で、他団体との競合で施設の確保が困難であるが選手に良い環境でプレーしてもらいたいので、会場の確保に努力をしていきたい。
	＜数値目標＞ 男女の登録選手数５００名を目標に増加させる
	＜スローガン＞ *栃木のフットサルの振興と競技力の向上*
２０１８度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	①男女栃木県リーグの選手数及びチーム数増加と安定稼働 ②各年代におけるフットサル大会の安定運営と選手の発掘 ③U－23年代以下の育成・強化 ④普及事業の促進 ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 ⑧各種普及イベント

10. 審判委員会

２０１８度の活動目標	①ＪＦＡ関東協会（KFA）ともに審判育成・審判指導者育成のためシステムを改善・再構築している過渡期である。それに伴い、栃木県も新しい指導法を確立できるようＪＦＡKFAとの連絡を密に取る。特にレフェリーキャラバンを有効に活用する。 ②審判トレセンの充実を図る。実技研修（プラクティカルトレーニング）を含め研修内容を見直し、講師として３級インストラクターを活用し、指導者の資質向上も目指す。審判員・指導者ともに底辺の拡大・底上げを目指す。 ③ユース審判員独自の育成（レフェリースクール）及びユース上級審判員の育成、女子審判員の強化・増員も必要である。そのためには各カテゴリーでの講習会も計画する。 ④トップレフェリーセミナーⅡは徐々に効果が現れている。相樂氏にチーフを継続してもらい、さらに1級審判員の育成を図る。 ⑤イントレにインストラクターを参加させサポートする。上級の指導者を育成する。 ⑥作新大学を始めとする大学生の審判員育成を図る。 ⑦ＩＴ技術を導入し情報の共有を図り、審判員の研修に役立てる。
	＜数値目標＞ 審判員登録数を１級　８名、２級　70名、３級　500名、４級　4500名、 フットサル　600名、女子審判員１８名を目標に育成する。（中期、長期）
	＜スローガン＞ *ＴＨＥ　ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ　ＴＯ　ＲＥＦＥＲＥＥ* *ＦＲＩＥＮＤ‘Ｓ　ＤＲＥＡＭ（審判仲間の夢への挑戦）*
２０１８度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	（１種） ①３級インストラクター１名の輩出。 指導者を育成して審判員の育成に繋げる。 ②３級審判員の拡大。 他種別との連携と発掘により、1種大会の審判員を増やす。 ③３級審判員研修会の実施。 ３級審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。 （２種） ①４級ユース審判員の増大を図る。 ②ユース審判員の育成を充実させる。 ③若手顧問の強化・育成を図る。 （３種） ①審判研修会の充実

	・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ・地区別研修会の実施 ②若手審判員の発掘と育成 ・多種別との交流を図る。 ・上級審判員の拡大（２級審判員・３級審判員の増員） （４種） ①３級審判員研修会の充実を図る。 ②第４種から３級インストラクターを１名以上輩出する。 ③ユース審判員・若手審判員の発掘と育成に努める。 （女子） ３級昇格者２名、関東派遣１名を引き続き実施していく。 JFA都道府県女子トレセン出席者への４級新規受講推進。審判トレセン女子の部を新規取得者向けで開催する。 （シニア） ①各チームに、審判資格取得者を４名以上確保する。 ②シニアの各カテゴリー(0-40から0-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年１回以上研修会を行う。 （クラブ） ①２級審判員を１名昇格させる。 ②２級を目指す若手・中堅３級審判員を育成する。 ③県派遣審判員への参加者を増やす。 ④３級を目指す４級審判員を指導・育成する。 ⑤チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。 （フットサル） ①引き続き女性審判員の育成と若手審判員の確保を行う。 ②上級昇格希望者がいた場合は支援を行う。 （指導・育成・インストラクター） ①審判委員会組織の見直し、指導育成部を強化と育成に分けて活動の分担化を明確に図る。強化部門としてTRSⅡやトレセン、育成部門として３級昇格審査、フォローアップ研修、登録更新、取得講習会等を分担していく。 ②トレセン、リーグ戦、県民スポーツ大会等審判実技研修の機会を設定し、あわせてインストラクターの派遣も効果的に継続性を持たせて実施する。 ③２級、３級審判員及びSI３の増員。 ④ユース審判員、女子審判員、及び上級を目指す若手審判員の発掘方法の検討、具体的な育成案の作成。 （競技部） ①kickoffサイトの有効利用 インターネットのサイトやスマフォアプリ等を活用して審判員、インストラクターのスケージュール情報を吸いあげ、効率の良い審判割当、アセッサー割当と情報共有を行う。インターネットのサイトやスマフォアプリ等を活用して審判員の情報を吸い上げ、効率の良い審判割当と情報共有を行う。 ①各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	（１種） ・１種大会（県リーグ、知事杯等）やトレーニングマッチを使用した実技指導を実施する。 ・１種主催の研修会を開催する。 （２種） ユース審判員 ・ユース審判員の環境整備を行う。（４級審判員資格取得料金と更新料金を1500円に変更・レフェリースクール生の保険加入） ・４級取得講習会を中部・北部・南部で行う。また、新たに４級更新講習会も中部・北部・南部で行う。 ・2022年栃木国体に向けて、レフェリースクール生を２級審判員や３級審判員に昇級させる。 ・全日本少年サッカー大会で準決勝・決勝を担当できるユース審判員を育成する。 ・若手顧問を第２種の試合において積極的に割当して指導する。 （３種） ①研修会の充実

	・10月－中学校県新人大会最終日 ・12月－下野杯中学生サッカー大会準々決勝４試合 ・３月－東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力 （多種別との交流を含めて） ②審判員の発掘と育成 ・多種別の審判員との交流を推進する。 （３種→２種・１種へ）　（４種→３種へ） ・地区ごとに年１回の研修会を実施する。 （地区担当者の配置） （４種） ①審判研修会を計画的に実施する。 ・ルール講習会（指導者・帯同審判員） ・実技研修会（帯同審判員） ・実技指導者研修会（各地区３級審判員） ・３級審判員研修会（３級審判員のうち希望者） ②異なるカテゴリーへ審判員等を積極的に派遣する。 ・県民スポーツ大会（１種） ・高校サッカー選手権大会（２種） ・下野杯（３種） ③他種別との連携を図り、ユース審判員や若手審判員を各種大会で積極的に割当する。 （女子） JFA都道府県女子審判トレセン受講者を対象に新規取得講習会として再度実施し、４級審判員を増やし底辺拡大をはかる。３級新規受験者をもう一度洗い直し説得していく。2018年から高校新人大会を利用して県リーグ各カテゴリー選手権審判員の育成、また３級インストラクター育成の場として開催する。 （シニア） ・審判の取得･更新を通知で啓発する。 （クラブ） ①日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会栃木県予選 ②高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会栃木県大会 ③３種リーグチャンピオンシップ ④下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会 ⑤県派遣試合（県社会人・U-18等）において審判員を育成・発掘する。 （フットサル） ①上位のカテゴリーの試合や研修会で知り得た情報を県リーグを担当する審判を中心に共有する（随時） U-12の審判講習会を引き続き開催する。（１回） ②各種講習会については、効率的で効果的な運営を検討し確実に実施する。 （指導・育成・インストラクター） ①種別、級のカテゴリー枠を越えた研修会事業の実施。 ②審判トレセンを活用したインストラクターの指導スキルアップ研修会の実施。 ③JFAレフェリーキャラバン開催（予定）へ向けた準備と取り組みを行なう。

11．キッズ委員会

2018年度の活動目標	〈全体〉 ・サッカー未経験者の参加者数の増加 〈巡回指導〉 ・行政との連携（キッズ委員会以外からのアプローチも模索） ・指導先の拡大と受益者負担への働きかけ ・ＴＯＹＡＴＡとの協働による指導内容の充実 〈フェスティバル〉 ・地区フェスティバルの内容の充実（チーム対抗戦だけにしない） ・ＪＦＡフェスティバルの県内巡回スタイルの確立 ・各地区の教育委員会と各地区の４種との連携での開催 ・サッカー未経験者の参加増大（未経験者が来て初めて普及） 〈キッズリーダー講習会〉

	・大学・短大・専門学校等、教育者育成機関での開催 ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催
	＜数値目標＞ ・子どもたち延べ20,000人との交流 ・サッカー未経験者延べ200人の参加 ・キッズリーダー講習会の開催（10コース、200名） ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催（４回）
	＜スローガン＞ ***・キッズから栃木のサッカーを変えていこう*** ***・栃木をキッズ王国に***
2018度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・巡回指導　350回（実質85園・小学校35校） ・ＪＦＡフェスティバル、および各地区フェスティバルでの未経験者の参加へのアプローチと参加者の増加（目標200名） ・各地区フェスティバルの年２回以上開催 ・フェスティバルの内容の充実（チームの対抗戦だけにならない、研修会を兼ねる、所属チームをバラバラにして行なう、みんなで遊ぶ等） ・他種別との交流事業の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・JFAキッズサッカーフェスティバル ・JFAグラスルーツフェスティバル ・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・キッズリーダー養成講習会 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・栃木SC・ウーヴァFC・ヴェルフェFC等の巡回指導 ・キッズ研修会

栃木ＳＣ

■廣瀬浩二キャプテン

いつも栃木SCへの多大なるご声援をいただきまして誠にありがとうございます。

今年もキャプテンを務めさせていただきます廣瀬浩二です。２月２日から10日までの宮崎県都城市で行ったキャンプは、例年になく風が強く寒いキャンプでしたが、その寒さを吹き飛ばすほどの実りの多いキャンプとなりました。2018シーズンが開幕してからも、チームは成長していかなければいけないと思っています。メンバーと切磋琢磨し、日々のトレーニングからお互いを高めあっていきたいと思います。2015シーズン、2016シーズンの２年間Ｊ３リーグで戦った経験を、Ｊ２の舞台で存分に発揮していきたいと思います。今年も栃木SCへのご声援をお願いいたします。

■横山雄次監督

日頃より栃木SCに対してご支援、ご声援、また温かいサポートをいただきましてありがとうございます。栃木SCは今季、３シーズンぶりのＪ２の舞台で戦います。１試合１試合をしっかりと戦っていきたいと思っています。厳しい戦いが続くと思いますが、年間を通して引き続きサポートいただければありがたいと思っています。今シーズンもよろしくお願いいたします。

～　本気力（マヂカラ）～
2018シーズンに向けて

栃木ウーヴァフットボールクラブ
岸野　靖之

日頃より栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市及び栃木県南地域のみなさまをはじめ多くのご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昨シーズンは、残念ながら８年間在籍したJFLより降格し、今シーズンは関東リーグを戦う事になりました。

この『世界一難しい』と言われる、地域リーグを本気で１年で駆け上がるべく、今シーズンは、新代表取締役社長大栗崇司のもと、全所属選手のプロ化を行うと共に、岸野靖之CSOを中心に松田岳夫ヘッドコーチや永井州アカデミーディレクターを招き入れ、指導者側の体制も整えました。

JFL昇格に向けては既存の選手と新たな選手の特徴を生かして、常に自分たちがゲームの主導権を握り攻守両面で相手を圧倒するゲームを目指します。またどの試合も全力を尽くして最後の最後まで勝負にこだわり応援して下さる皆様の期待に応えたいと思います。

更にトップチームの強化はもとより、地元出身のプロ選手を排出するためにアカデミーやスクールも同様に整備し、トップチームに繋がる指導に力を入れて参りたいと思います。

栃木市を中心とし、小山市、佐野市、足利市、野木町、壬生町の４市２町の栃木県南地域をホームタウンとして、地域の皆様に協力して頂きながら、栃木ウーヴァは今後Ｊリーグ入りを視野に入れてスピード感を持ってクラブ、チーム強化を進めて参ります。

また、一番の味方である地域の方への恩返しとしても、地域のイベントへの参加や施設への訪問やサッカー教室だけでなく、キャラバンや「夢の教室」で幼稚園や小学校を訪問するなど、地域の方々とのふれあいの機会を増やし、絆もより強固にしながらサッカーを通して栃木県南地域より、活性化していきたいと思います。

本気力（マヂカラ）で新たなスタートを切った栃木ウーヴァを皆様よろしくお願いします。

2018シーズンに向けて

ヴェルフェたかはら那須
山本 奈

日頃より栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市のみなさまをはじめ多大なるご支援ご協力ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。

昨季は関東サッカーリーグ５位という結果で、目標であるJFL昇格は叶いませんでしたが、関東サッカーリーグ所属の20チームで争うKSL市原カップでは優勝することができクラブとして初のタイトルを獲得いたしました。

現在、チームは前身である矢板SC時代から選手として活躍し、昨季まで選手兼ヘッドコーチを務めていた鷹觜倫弘　新監督の下、リーグ開幕、そして目標であるJFL昇格に向けて日々の練習に励んでおります。

2018シーズンのチームスローガンは「Focus on」といたしました。「Focus on」という言葉には『焦点を合わせる、集中する』という意味がありますが、このスローガンには、ヴェルフェの選手として、仕事、サッカー、家庭など、それぞれの局面で焦点を合わせて全力で取り組む。全員が焦点を合わせ、壁を突き破る（目標を達成する）という想いを込めています。

また、チームコンセプトを「追求」といたしました。ここには地域のヒーローとしての役割、一社会人、サッカー選手としての成長、そして、ピッチの上でのひとつひとつのプレー、これらすべてを追求していく、そして、その姿勢を示すことで周りのみなさまに伝えられるものがある。という想いを込めています。

今季の関東サッカーリーグ1部は例年にも増して厳しい闘いになることが予想されます。リーグ内では年々Ｊリーグ所属経験のある選手の数も増えております。しかし、これは反対に私たちのホームスタジアムである矢板運動公園でより緊迫した

レベルの高い試合が繰り広げられるということです。そこで、この文章を読んでいただいているみなさまにはぜひとも、仕事終わりの夜に練習をし、プロにも負けないサッカーへの情熱を持ったヴェルフェの選手たちの試合を観に来ていただきたいと思っています。試合会場にはＪリーグほどの観客はいません。派手さもありません。ただそこには、選手たちが熱く闘う声が聞こえます。勝利への気持ちが伝わります。相手のゴールへ必死に向かう姿があります。そのような姿を通して、サッカー関係者のみなさまはもとより、サッカーにあまり興味のない方にも少しでも何かを伝えられればと思います。なお、ヴェルフェのホームゲームは全試合無料で観ていただけます。

昨季同様、今季も全ホームゲームでサッカー教室を開催いたします。トップチームの選手が直接子どもたちにサッカーを教え、一緒に楽しみます。この教室を通して多くの子どもたちにサッカーの楽しさ面白さを伝え、少しでも地域やサッカーの普及に貢献できればと思います。個人でも、チームでの参加でも大歓迎ですので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

今季も私たちの活動を通して栃木県のサッカーを少しでも盛り上げていけるよう努めて参りますので、試合結果や活動について気にかけていただければ幸いです。2018年もヴェルフェたかはら那須を何卒よろしくお願いいたします。

高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長
小田林　宏至

現在、高校連盟は62校が県高体連サッカー専門部に所属し活動しています。

10月７日から11月４日にかけて開催された第95回全国高校サッカー選手権大会栃木大会２次予選は、インターハイ予選の上位８校及びU-18リーグ１部に所属する高校３校の計11校が推薦出場となり、８月に実施した１次予選を勝ち抜いた16校と併せ、計24校が熱戦を繰り広げました。

準決勝第１試合は、第１シードの真岡高校を破った佐野日大高校と小山南高校が対戦しました。試合は佐野日大高校が２対０で勝利しました。続く第２試合は、小山西高校と矢板中央高校が対戦し、矢板中央高校が終盤に連続して得点し、５対１で勝利しました。

決勝戦は、矢板中央高校が佐野日大高校を３対０で下し、優勝しました。同校は、２年ぶり８回目の本大会出場を決めました。

矢板中央高校は本大会において、２回戦から登場、三重県代表の三重高校に３対２、３回戦鹿児島県代表神村学園高校に１対０、準々決勝新潟県代表日本文理高校に１対０と１点差の接戦をものにし、準決勝に進出しました。

埼玉スタジアムで行われた準決勝では、千葉県代表の流通経済大学柏高校と対戦し、最後まで粘りを見せましたが、後半に失った１点を追いつけず０対１で敗れてしまいました。しかし、敗れはしたものの、昨年の佐野日大高校に続き、栃木県代表として２年連続全国３位という素晴らしい結果を残してくれました。

矢板中央高校はU-18ユースリーグ１部において圧倒的な強さを見せ優勝しました。

関東プリンス参入戦では、埼玉県代表の昌平高校に２対０と勝利し、昇格決定戦に駒を進めました。

決定戦でも、山梨県代表の日本航空高校と対戦し２対０で勝利し、見事関東プリンスリーグへの昇格を果たしました。

栃木県のチームとしては久しぶりの関東プリンスリーグの参入となります。是非、プレミアを目指して健闘して欲しいと願います。

本年度最後の大会となる新人大会は、降雪の影響で準々決勝以降が２週間延期になりました。安全確保を優先した結果です。

新人大会では、準決勝で文星外大附属高校を破った矢板中央高校と佐野日大高校を破った宇都宮白楊高校で決勝戦を戦いました。

決勝戦は矢板中央高校が４対０で勝利し、２年ぶり２年ぶり９度目の優勝を飾りました。

最後に、県内で年間をとおして実施しているU-18リーグにおいては、年々組織及び運営が整備されてきています。複数チームの参加も当たり前となり、試合数が確保され、多くの選手たちが公式戦を経験することができるようになりました。同時に試合日程の過密化や選手および顧問の先生方への負担の増加、各学校の行事や試験との関係等課題も多いのが現状です。

今後次年度に向け、よりよいサッカー環境を整えるべく、取り組んでいきたいと思います。

第４種委員会
第41回全日本少年サッカー大会 栃木県大会

11月３日から４日間にわたり、全国大会への切符をかけて熱戦が繰り広げられました。今年度もトップリーグのチームと地域リーグを勝ち上がった64チームが大会に参加しました。

最終日の準決勝まで勝ち進んだのは、栃木SCジュニア（宇河）FC VALON（下都賀）TEAMリフレSC（宇河）FC中村（芳賀）の４チームでした。

決勝戦は栃木ＳＣジュニア対ＦＣ中村となり、打ち合いをものにした栃木ＳＣジュニアが優勝し、全国大会の切符を手にしました。

＜優勝した栃木SCジュニア＞

＜準優勝のFC中村＞

＜第三位 FC VALON＞

＜第三位　TEAMリフレSC＞

＜準優勝のFC　VALON＞

第46回栃木県少年サッカー選手権大会

11月18日から４日間にわたり、第46回大会が行われました。

181チームが参加した今大会も多くの名勝負が生まれました。決勝はともぞうSC（宇河）対FC　VALON（下都賀）となりました。両者一歩も譲らぬ好ゲームとなり、決着は延長戦にまでもつれました。熱戦を制したのはともぞうSCでした。準優勝はFC　VALON、第３位にはヴェルフェU-12（塩谷南那須）、TEAMリフレSC（宇河）が輝きました。

＜優勝したともぞうSC＞

＜第3位のヴェルフェU-12＞

＜第3位のTEAMリフレSC＞

また、10月21日、22日にはジュニアの部も開催されました。４年生以下のフレッシュな大会です。結果は、栃木SCジュニア（宇河）、JFCファイターズ（芳賀）、野原グランディオスFC（北那須）ともぞうSCU10（宇河）がブロック優勝しました。準優勝はヴェルフェたかはら那須U10（塩谷南那須）、JSTかがやき（北那須）、しおやFCヴィガウス（塩谷南那須）、Ashikaga, minami, FC（両毛）でした。

第41回全日本少年サッカー大会

12月26日から鹿児島県にて開催されました。本県代表の栃木SCジュニアはアルビレックス新潟（新潟県）FCゼブラ（愛媛県）FCアヴェニーダソル（三重県）の３チームと予選リーグを戦いました。アルビレックス新潟に４－０、FCゼブラに４－５、FCアヴェニーダソルに６－０、２勝１敗となり、決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメント１回戦でサンフレッチェ広島（広島県）に０－４で破れベスト16という結果でした。

＜優勝のFC　VALON＞

＜準優勝の三島FC＞

JA全農杯
第35回栃木県少年サッカー新人大会

１月20日から３日間にわたって新人大会が開催されました。

大会は各地区の予選を勝ち上がった64チームが優勝を目指して激しい戦いを繰り広げました。

決勝日に勝ち進んだのは、FC　VALON（下都賀）、おおぞらSC（芳賀）。三島FC（北那須）、HFC.ZERO真岡（芳賀）の４チームでした。決勝は、FC　VALON対三島FCの対決となりました。レベルの高い好ゲームとなりましたが、FC　VALONが３－０で勝利し、２年連続優勝となりました。

第11回関東シニア（40歳以上）サッカー選手権大会 戦績表

【試合会場】　押原公園人工芝グラウンド　・　押原公園天然芝グラウンド
【試合時間】予選リーグ（①～⑫）：60分（30分-10分-30分）　・　順位決定戦（⑬～⑯）：60分（30分-10分-30分）＋PK戦

試合日	マッチNo.	試合会場	ｷｯｸｵﾌ時間	対戦カード									備考欄
				チーム名	都県名	計	前後	vs	前後	計	チーム名	都県名	
12/16（土）	①	人工芝	10:00	FC船橋	千葉県	4	4 0	vs	0 0	0	T･ドリームス	東京都	A組予選リーグ
	②	天然芝	10:00	図南ｻｯｶｰｸﾗﾌﾞ ｸﾞﾗﾝﾃﾞ	群馬県	2	1 1	vs	0 1	1	セレソン所沢シニア	埼玉県	A組予選リーグ
	③	人工芝	11:35	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	3	1 2	vs	0 0	0	宇都宮FCファミリー	栃木県	B組予選リーグ
	④	天然芝	11:35	Bon De Bola藤沢	神奈川県	1	1 0	vs	1 2	3	FCリズム	山梨県	B組予選リーグ
	⑤	人工芝	13:10	FC船橋	千葉県	2	1 1	vs	1 0	1	図南ｻｯｶｰｸﾗﾌﾞ ｸﾞﾗﾝﾃﾞ	群馬県	A組予選リーグ
	⑥	天然芝	13:10	T･ドリームス	東京都	4	3 1	vs	1 1	2	セレソン所沢シニア	埼玉県	A組予選リーグ
	⑦	人工芝	14:45	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	3	1 2	vs	0 0	0	Bon De Bola藤沢	神奈川県	B組予選リーグ
	⑧	天然芝	14:45	宇都宮FCファミリー	栃木県	0	0 0	vs	1 1	2	FCリズム	山梨県	B組予選リーグ
12/17（日）	⑨	人工芝	9:30	T･ドリームス	東京都	4	1 3	vs	1 0	1	図南ｻｯｶｰｸﾗﾌﾞ ｸﾞﾗﾝﾃﾞ	群馬県	A組予選リーグ
	⑩	天然芝	9:30	宇都宮FCファミリー	栃木県	0	0 0	vs	1 4	5	Bon De Bola藤沢	神奈川県	B組予選リーグ
	⑪	人工芝	11:05	FC船橋	千葉県	0	0 0	vs	0 1	1	セレソン所沢シニア	埼玉県	A組予選リーグ
	⑫	天然芝	11:05	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	1	1 0	vs	0 0	0	FCリズム	山梨県	B組予選リーグ
	⑬	人工芝	13:00	図南ｻｯｶｰｸﾗﾌﾞ ｸﾞﾗﾝﾃﾞ	群馬県	2	2 0	vs	0 1	1	宇都宮FCファミリー	栃木県	7･8位決定戦
	⑭	天然芝	13:00	セレソン所沢シニア	埼玉県	1	0 1	vs	1 1	2	Bon De Bola藤沢	神奈川県	5･6位決定戦
	⑮	人工芝	14:35	T･ドリームス	東京都	3	1 2	vs	0 0	0	FCリズム	山梨県	3位決定戦
	⑯	天然芝	14:35	FC船橋	千葉県	2	1 1	vs	0 1	1	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	優勝決定戦

【戦績表】

※勝ち（○）：3点　分け（△）：1点　負け（●）：0点

【A組】		FC船橋（千葉県）	T･ドリームス（東京都）	図南ｻｯｶｰｸﾗﾌﾞ ｸﾞﾗﾝﾃﾞ（群馬県）	セレソン所沢シニア（埼玉県）	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1	FC船橋（千葉県）		○ 4－0	○ 2－1	● 0－1	3	6	2	0	1	6	2	4	1
2	T･ドリームス（東京都）	● 0－4		○ 4－1	○ 4－2	3	6	2	0	1	8	7	1	2
3	図南ｻｯｶｰｸﾗﾌﾞ ｸﾞﾗﾝﾃﾞ（群馬県）	● 1－2	● 1－4		○ 2－1	3	3	1	0	2	4	7	-3	4
4	セレソン所沢シニア（埼玉県）	○ 1－0	● 2－4	● 1－2		3	3	1	0	2	4	6	-2	3

【B組】		ドリーム水戸シニアFC（茨城県）	宇都宮FCファミリー（栃木県）	Bon De Bola藤沢（神奈川県）	FCリズム（山梨県）	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1	ドリーム水戸シニアFC（茨城県）		○ 3－0	○ 3－0	○ 1－0	3	9	3	0	0	7	0	7	1
2	宇都宮FCファミリー（栃木県）	● 0－3		● 0－5	● 0－2	3	0	0	0	3	0	10	-10	4
3	Bon De Bola藤沢（神奈川県）	● 0－3	○ 5－0		● 1－3	3	3	1	0	2	6	6	0	3
4	FCリズム（山梨県）	● 0－1	○ 2－0	○ 3－1		3	6	2	0	1	5	2	3	2

【順位決定戦】

【優勝決定戦】	FC船橋	A1位	2	1 － 0 1 － 1	1	ドリーム水戸シニアFC	B1位
【3位･4位決定戦】	T･ドリームス	A2位	3	1 － 0 2 － 0	0	FCリズム	B2位
【5位･6位決定戦】	セレソン所沢シニア	A3位	1	0 － 1 1 － 1	2	Bon De Bola藤沢	B3位
【7位･8位決定戦】	図南ｻｯｶｰｸﾗﾌﾞ ｸﾞﾗﾝﾃﾞ	A4位	2	2 － 0 0 － 1	1	宇都宮FCファミリー	B4位

優　勝　FC船橋
準優勝　ドリーム水戸シニアFC
第3位　T･ドリームス
第4位　FCリズム
第5位　Bon De Bola藤沢
第6位　セレソン所沢シニア
第7位　図南サッカークラブ グランデ
第8位　宇都宮FCファミリー

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

JFA第18回全日本O-60サッカー大会関東予選会

A組		埼玉県	神奈川県	栃木県	茨城県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
①埼玉県	埼玉シニア60		○ 1−0	○ 3−0	○ 2−1	1	9	3	0	0	6	1	5
②神奈川県	横須賀メジャー	× 0−1		○ 3−0	× 0−3	3	3	1	0	2	3	4	−1
③栃木県	とち丸シニアSC	× 0−3	× 0−3		△ 0−0	4	1	0	1	2	0	6	−6
④茨城県	ラッツォス古河FC60	× 1−2	○ 3−0	△ 0−0		2	4	1	1	1	4	2	2

B組		千葉県	群馬県	山梨県	東京都	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
⑤千葉県	古河市原シニア60		× 0−1	× 0−1	× 1−2	4	0	0	0	3	1	4	−3
⑥群馬県	群馬FC60	○ 1−0		○ 4−0	△ 0−0	1	7	2	1	0	5	0	5
⑦山梨県	山梨シニア	○ 1−0	× 0−4		× 0−3	3	3	1	0	2	1	7	−6
⑧東京都	東京Lazos2011	○ 2−1	△ 0−0	○ 3−0		2	7	2	1	0	5	1	4

優勝決定戦	A組1位		B組1位
	埼玉県	1−0	群馬県
3・4位決定戦	A組2位		B組2位
	茨城県	2−1	東京都
5・6位決定戦	A組3位		B組3位
	神奈川県	1−0	山梨県
7・8位決定戦	A組4位		B組4位
	栃木県	0−4	千葉県

優勝	準優勝
埼玉シニア60	群馬FC60
第3位	第4位
ラッツォス古河FC60（全国大会出場）	東京Lazos2011
第5位	第6位
横須賀メジャー	山梨シニア
第7位	第8位
古河市原シニア60	とち丸シニアSC

JFA第8回全日本O-70サッカーオープン大会関東予選会　結果

A組		群馬県	栃木県	東京都	神奈川県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
①群馬県	群馬FC70		○ 2−1	× 0−4	× 0−2	3	3	1	0	2	2	7	−5
②栃木県	栃木大昭SC	× 1−2		× 0−6	× 0−7	4	0	0	0	3	1	15	−14
③東京都	東京都ロイヤル	○ 4−0	○ 6−0		○ 3−2	1	9	3	0	0	13	2	11
④神奈川県	茅ヶ崎70雀	○ 2−0	○ 7−0	× 2−3		2	6	2	0	1	11	3	8

B組		千葉県	埼玉県	山梨県	茨城県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
⑤千葉県	ｱｽﾚﾁｯｸｸﾗﾌﾞちば		△ 0−0	○ 2−1	○ 2−0	2	7	2	1	0	4	1	3
⑥埼玉県	埼玉シニア70	△ 0−0		○ 3−0	○ 2−0	1	7	2	1	0	5	0	5
⑦山梨県	山梨シニア70	× 1−2	× 0−3		× 0−2	4	0	0	0	3	1	7	−6
⑧茨城県	茨城シニア70	× 0−2	× 0−2	○ 2−0		3	3	1	0	2	2	4	−2

優勝決定戦	A組1位		B組1位
	東京都	2−0	埼玉県
3・4位決定戦	A組2位		B組2位
	神奈川県	3−1	千葉県
5・6位決定戦	A組3位		B組3位
	群馬県	0−0	茨城県
7・8位決定戦	A組4位		B組4位
	栃木県	0−4	山梨県

優勝	準優勝
東京都ロイヤル	埼玉シニア70
第3位	第4位
茅ヶ崎70雀（全国大会出場）	ｱｽﾚﾁｯｸｸﾗﾌﾞちば
第5位	
群馬FC70	茨城シニア70
第7位	第8位
山梨シニア70	栃木大昭SC

サッカー巡回指導
～JFAとトヨタの新プロジェクト始動！～

巡回スタッフ
おおぞらSC　小林一幸

栃木県サッカー協会キッズ委員会の取り組みとして、小学校・幼稚園・保育園にキッズインストラクターやキッズリーダーを派遣し、巡回指導をする事業を県内各地で行なっています。

今年度、2017年５月17日、日本サッカー協会（JFA）とトヨタ自動車は、未就学児の外遊びやスポーツ活動の推進を目的とした活動「JFAキッズプロジェクト」をサポートする「JFA Youth & Development Programmer」パートナーシップを締結し、幼稚園や保育園のサッカー巡回指導を始めました。

全国のトヨタ販売店、部品共販店、レンタリース店のスタッフが『JFA公認キッズリーダー』のライセンスを取得し、各都道府県のサッカー協会と手を取り合いながら地域の幼稚園・保育園などでサッカーならびに身体を動かす楽しさを伝える活動を行ない、「サッカーを通して未来を担う子供たちが心身ともに健やかに成長できるよう貢献する」という事業がスタートしました。

初年度の全国のモデルFAとして、栃木県内で開催されることになりました。

第１回目の開催として栃木県茂木町の小さな保育園からスタートし、今では県内各地の巡回指導の場にサポートしてくれるようになりました。

トヨタ販売店のスタッフの方は、初めての参加で緊張した様子でしたが、園児たちは、トヨタさんで用意してくれたカラフルな色のサッカーボールやビブスに興味津々で、まだかまだかと楽しみにしてくれていたようでした。

内容としては、約１時間のサッカー教室のサポートをして頂きました。

トヨタスタッフと園児とのファーストコンタクトは、いきなりぐいぐい来る子ども達のエネルギーに戸惑いながらも、笑顔で挨拶などもできていました。

サッカー教室のメニューは、毎回ある程度決めていたものを、子ども達の人数や年齢、トヨタスタッフの人数などにより、園児・スタッフ・園の先生方、みんなが楽しめるように工夫しています。

巡回指導者の役割として、常に全ての参加者に「スポーツの楽しさ」や「友達との絆」、「出来るようになりたいと思うこと」、「ほめられること」、「お互いをリスペクトする心が芽生えること」などを感じてもらえるように心がけています。

サッカー教室の中で、トヨタスタッフも園児がチャレンジしたことをたくさんほめてくれ、子ども達からの「また来てねえ！」の言葉はとても嬉しかったようでした。

子ども達は外部からくる、お兄さんお姉さんと遊べることがとても楽しいようで、園の先生方のコメントも「たくさんの目で子ども達を観て、ほめて頂けることは本当にありがたい」とのことでした。

今回の事業をするにあたり、日程調整やトヨタスタッフの割り振りなど、課題もありますが、活動内容なども見直しながら、まだまだ良くなっていくと感じています。

そして、この活動を機に巡回指導の場がもっと増えてくれることを願っています。

10／28～29に行われた、【関東キッズジョイントミーティングin栃木】で、栃木でのトヨタさんとの共同プロジェクトの取り組みの様子を発表させて頂きました。

各都県では様々な問題があるようでしたが、栃木県はモデルFAとして、うまくスタート出来ていると再確認できました。

これから、全国各地のキッズリーダーたちが、サッカーやスポーツの楽しさを伝え、そして、サッカーを通してたくさんの子供たちの身体作りや成長を応援していくと思います。

ここから生まれるたくさんの感動が、将来日本を代表するスポーツ選手を誕生させるかもしれません。

http://toyota.jp/wows/actionclip/tochigikids/?padid=ag377_wows_161007_actionClip_actionClip_tochigikids

「サッカー協会とトヨタとの巡回の協働事業」

トヨタ部品栃木共販（トヨタ担当者）
田崎　公俊

2017年６月から、栃木県サッカー協会と栃木県トヨタ販売店５社【栃木トヨタ自動車】、【栃木トヨペット】、【トヨタカローラ栃木】、【ネッツトヨタ栃木】、【ネッツトヨタ宇都宮】に【トヨタ部品栃木共販】が加わり６社（以下トヨタ）が全国に先駆けてキッズサッカー巡回指導に取り組むことになりました。

今まではサッカー協会の巡回担当者が１人で指導にあたっていましたが、トヨタから２名が加わりこれからは３名で子供たちに関わることができるようになりました。

活動に先立ち、４月20日には日本サッカー協会（JFA）主催の「キッズリーダー養成講習会」に約40名が受講し、ライセンスを取得しました。

また、更なる要員確保に向けて、12月１日に第２回目の講習会を開催し、約60名が追加受講しました。その時には、新たに【レンタリース栃木】も参加して頂き、2018年からの活動では、７社100名の巡回指導員でサポートしていく体制ができました。

トヨタでは、将来のクルマファン、トヨタファン、販売店のファンを増やし、お客様から選んで頂ける“町一番の企業”を目指すために「もっといいお店づくり」に取組んでいます。そこで、このような活動で一緒に体を動かした子供達がサッカーを好きになると共に、トヨタのファンになってくれることを期待して活動に参加していますが、いまのところは、園児さんから見れば、「大人の人が来て一緒にサッカーをして楽しかった」程度のことかもしれません。

しかし、回数を重ねることで「トヨタの人と・・・」に変えられるよう、記憶に残る活動にしていきたいと思っています。

活動に参加したスタッフは、まだ回数も少なく何をしたらよいかが分からず、羞恥心もあり、園児さんたちとの絡み方がぎこちない様子でしたが、キッズインストラクターのサポートにも助けられ、終わってみれば園児さんたちと共に笑顔で後片付けやハイタッチをする姿がよく見られました。

このように、多くの子供達と触れ合うことは普段はできませんので、貴重な体験をさせて頂いているとともに、キッズインストラクターのみなさんの園児さんたちへの上手な接し方は、普段の業務で、お子様連れのお客様への対応にも生かせると感じており、新しい目線で学ばせて頂くことが多いと感謝しております。

また、インストラクターの方や保育園・幼稚園の先生方からも、「トヨタの参加により普段より１人１人に目が行き届くようになり、安心できる」という言葉を頂いたり、「園児たちが褒めてもらいたい、認めてもらいたいという自我が芽生え始めた」という言葉などお聞きすると、『サッカーを通じて、地域の活性化と健やかな青少年の育成に寄与できている』と改めて実感しております。

トヨタが参加した巡回指導は、2017年６月～12月末までで15カ所32回行い、参加した園児さんたちは延べで863人でした。そして2018年３月までには、19カ所で53回行い、約1,500人の園児さんたちと触れ合う予定です。

巡回する保育園・幼稚園は、栃木県サッカー協会でまとめた年間スケジュールをベースに計画しており、現在は約７割強の計画について参加している状況です。

ご参考までに、栃木県には、保育園・幼稚園を合わせると約600の施設がありますので、これから１園でも多く、そして１人でも多くの子供たちと触れ合っていきたいと思っています。

《12月の第2回講習会のトヨタメンバー》

キッズサッカーフェスティバル グラスルーツ2017日光

県キッズ委員　茂呂　昌美

◇日光地区でグラスルーツを開催して

11月25日、日光丸山公園サッカー場にて、【JFAキッズサッカーフェスティバル・グラスルーツ】を開催しました。

上都賀地区でのキッズの活動は、今市高校・今市工業高校に協力してもらいアカデミーを行っていますが、グラスルーツは初の開催となりました。

栃木のグラスルーツフェスティバルでは毎回、指導者のC級・D級のリフレッシュも兼ねており、午前中は講習会で「グラスルーツ」というもの学び、午後は実際に子供たちに指導をしたり、一緒に動いたりして楽しんでもらっています。

今回は上都賀地区のサッカー未経験者の１・２年生（13名）と、日光市のチームでサッカーをしている１・２年生（34名）が参加してくれました。

サッカー未経験の子供達は、最初は大勢の子供に圧倒され緊張している様子でしたが、グラスルーツ方式のトレーニングとゲームを繰り返しながら、ボールと遊び、仲間達と一緒のゲームを行うことで、体を動かすことの楽しさやショートをしてゴールを決めてチームみんなで喜んでいる姿からは子供らしさを感じました。

『サッカーは子供を大人にし、大人を紳士にする』と言われています。

今回グラスルーツフェスティバルを開催し、来てくれた子供たちが短時間で成長していく姿を目の当たりにして、たくさんの子供たちにサッカーを通していろいろなことを経験し、学び、そして成長してほしいと改めて感じました。

私達、キッズ年代に関わる指導者は、子供が一番最初に出会うコーチです。そして子供たちの未来にも触れています。

それを忘れずに、これからもサッカーの楽しさを伝えていきたいと思います。

関東上位狙う選抜チーム

男子、男子23歳以下、女子で活動

複数のチームから優秀な選手を集めオールスターチームとして、国や県、地区などの対抗戦に臨むチームを、サッカーの世界では「代表」と呼びます。一方でフットサルでは「選抜」と呼ばれるチームがいわゆる代表チームに相当します。

サッカーでは国民体育大会などが都道府県対抗戦の代表例となりますが、フットサルにも都道府県対抗戦というものがあり、男子は「全国選抜フットサル大会」、女子は「日本トリムPresents全国女子大会」と銘打たれ熱戦が展開されています。また、男子23歳以下の公式戦では「長野オープン」という地域大会が最もメジャーで、数年前から栃木県フットサル連盟もチームを派遣し、若手選手の強化に乗り出しています。

「全国選抜フットサル大会」は例年５月下旬に行われ、「日本トリムPresents第10回全国女子大会」の関東地域予選と「2018第12回長野オープンU23大会」は今冬に行われたばかり。本県女子選抜チームを率いた福島史尊監督（ブラジニア・フットサル・レディース）と23歳以下の本県男子選抜チームを率いた坂本忠之監督（Mcamaradas／栃木FC）に大会を振り返ってもらいました。

■日本トリムPresents第10回全国女子大会
2018年２月３日（埼玉：熊谷ドーム）
１回戦　栃木県選抜１－８群馬県選抜

▲関東大会に臨んだ本県女子選抜チーム

■2018第12回長野オープンU23大会
2018年３月16、17日（長野：ホワイトリンク）
リーグ戦　栃木県選抜２－４大阪府選抜
栃木県選抜０－５東京都選抜
栃木県選抜４－１０三重県選抜

▲長野オープンに出場した23歳以下本県男子選抜チーム

真岡市総合運動公園で初開催

皇后杯サッカーで熱戦展開

女子サッカー日本一を決める第39回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会が初めて真岡市総合運動公園サッカー場で開催されました。10月28日、29日とそれぞれ１回戦２試合が行われ、全国から集まった強豪チームが熱戦を繰り広げました。

28日は「日体大FIELDS横浜サテライトB（関東・東京）－東海大学付属福岡高（九州・福岡）」と「日テレ・メニーナ（関東・東京）－仙台大（東北・宮城）」の２試合が行われ、日体大FIELDSと日テレ・メニーナの関東勢が勝利。29日は「北海道文教大学明清高（北海道）－常磐木学園高（東北・宮城）」と「NGUラブリッジ名古屋（東海・愛知）－東洋大（関東・群馬）」の２試合を行い、常磐木学園高とNGUラブリッジ名古屋がそれぞれ２回戦に駒を進めました。

大会当日は栃木県サッカー協会女子連盟に加え、地元の芳賀地区のサッカー協会関係者らも参加し、全国大会の運営を支えました。

▲熱戦を展開する選手たち

手塚さんがJFA理事に

宇都宮市在住で日本サッカー協会の女子委員会副委員長を務める手塚貴子さん（47）が３月24日の日本サッカー協会第４回理事会において、日本サッカー協会理事に就任しました。手塚さんは今後、日本サッカー界の中枢で女子サッカーの普及、育成、強化に当たっていくことになります。

理事会では、女子サッカーの振興や女性、新人登用を視野に、元日本女子代表の手塚のほか、なでしこジャパン元監督の佐々木則夫さんらが新たに理事に選任されました。このほか田嶋幸三会長、村井満副理事長（現Ｊリーグチェアマン）らの再任も決議されました。日本サッカー協会は今後理事30人体制で運営されていくことになります。

新たな役職で国内女子サッカーの舵取り役を担う手塚さんは「理事になったからといって、やるべきことは大きく変わらない。女子サッカーさらなる振興に向けた各種施策は既に整理されてきており、今後、具体的な動きを進めていきたい」と抱負を語ってくれました。

スポーツ用品販売大手ゼビオが運営主体

新栃木SCレディース発足

15歳以下の選手を中心に栃木県女子サッカーリーグなどで活躍する栃木SCレディースに今季、ゼビオの正社員となる社会人メンバー８人が加入し、新たなスタートを切ります。

今季、８人は15歳以下の選手と共に練習をしながら、栃木県女子サッカーリーグを主戦場に戦い、関東女子リーグ昇格などチームのさらなる飛躍を図ることになります。監督には宇都宮市出身の黒川綾華氏が就任しました。

▲スペシャルアドバイザーの北島氏と選手たち
（写真は3月17日付、下野新聞から）

３月17日には宇都宮市内で壮行会も開かれ、競泳の五輪金メダリストでゼビオのスペシャルアドバイザーを務める北島康介氏も駆けつけ、新たな船出をするチームにエールを送りました。

『栃木に恩返しを！』

関東インストラクター　黒澤幸樹

私は社会人サッカーチームの登録審判員として、18歳の時に４級審判を取得しました。先輩の勧めで25歳の時に３級審判を取得いたしましたが、その頃の自分は、茶髪頭でサンダル履きに咥えタバコ。身なりも乱れた恰好でグランドに出入りする様な、どうしようもない悪ガキだったと思います。

そんな自分がなぜ３級？と思うでしょうが、その当時は若い審判員が少なく「頑張ればＪリーグで審判できるぞ！」とそそのかされたこともあって(笑)、派遣審判員として県の社会人１部リーグなどの審判を行っていました。宇都宮協会にもお世話になり平日の火曜日と木曜日は宇都宮でナイターサッカーの審判。土曜日は市役所サッカー大会で審判をして、日曜日は県の社会人サッカーで審判をし、１年目からハードな年になりました。その年は70試合以上の試合をし、全て副審だったのを鮮明に覚えております。でも目立ちたがりの性格のせいか？審判も個性が必要と勝手に思い込み、茶髪頭で審判をやっていました。でもある時、ある人に『人を裁くんだぞ！ちゃんとしろっ！』と一喝され、それ以後髪の毛の色は黒くなり（当たり前ですが）身なりもそれなりになりました。

そのお陰もあり、派遣審判員としての２年目は色々な面で勉強になった年でした。３級でしたが社会人１部リーグの主審を任されるようになり、当時の日立対矢板クラブの１位２位対決など年間１部リーグだけで10試合近くの主審を行っておりました。指導者の方のお陰で27歳の時（2000年）に２級審判に推薦して頂き無事合格しました。

このまま順調に２級審判として１級を目指して頑張るかなぁと思っておりましたが、2004年くらいから急に仕事が忙しくなり日曜日も仕事をする日が多くなり試合から遠ざかっていきました。当然審判の割当も少なくなり、このまま審判をやめてしまうのかなぁと本気で思っておりました。

でも、そんな不安定な気持ちだったある日、ある

人に次のように言われました。自分がまだ３級審判の時に宇都宮の大会で主審を務めたのですが、私はゲームコントロールに失敗しゲームが荒れに荒れ、外国人のGKが相手FWと接触して倒れ救急車で運ばれ試合が中断した事がありました。「そのGKが靭帯を損傷して一生サッカーができない体になり祖国に帰国したぞ」と。

心が痛みました。申し訳ない気持ちになり即座に謝りたい気持ちで自然と涙が出てきました。その時に「ここで審判やめてどうすんだ！ここで負けてどうすんだ！」いつになるか分からないが、あのGKに謝れる日が来るまで自分は審判をやめてはいけないと決心いたしました。そんなこともあり、少しずつではありますが派遣審判員として復帰をし、失った信用を取り戻すのに時間はかかりましたが、40歳になったとき３級インストラクターを取得し、昨年２級インストラクターに推薦していただき無事に合格いたしました。

ここまでの道のりは決して平たんではありませんでしたし、これからももっと過酷な人生が待っているかもしれません(笑)。でも良い指導者に会え、栃木県で育てられたことは幸運としか言いようがありません。今はありがたい事に小山市サッカー協会で審判部長を任され、年２回の４級取得講習会の場で講義をしたり、４級更新講習会でも講義できる立場にあります。

今後の目標は、県南地区から若手審判員を発掘し、１級審判員になれる人材を育成することです。自分の経験を若い人に伝授し審判仲間を増やしていきたいです。その後進達が10年後20年後に審判をやめる事無く栃木で審判活動を続けているように、栃木の指導者として微力ながら支えていきたいと思います。

『全ては栃木の為に！』

2002年栃木トヨタカップ決勝にて
左から筆者、菅野仁和氏、相樂亨氏、中島幸志氏

もっともっと審判仲間を増やし、審判王国栃木を目指していきたいです。

最後に、あんなどうしようも無かった自分をここまで育ててくれた人生のお父さん。あの時あなたの言葉があったから今があります。

奥澤浩さん、ありがとうございました。

「2017年度１級審判員昇級審査」

サッカー１級審判員　長峯滉希

私は小学生の頃からサッカーを始め、大学を卒業し、ヴェルフェたかはら那須でのプレーを最後に選手生活を終えた。そして、選手としては叶わなかった、Ｊリーグのフィールドに立つという夢を叶えるスタートラインに立つことができる2017年度１級審判員認定審査を受験した。

１級審判員になるためには、競技規則の理解、選手と共に走り切れるフィジカル、瞬間のプレーを見極める動体視力と判断力、そして、選手や観客、スタッフなどのサッカーに関わる全ての人々の思いを背負いながら常に公平な立場であり続けるメンタリティーが備わってなければいけない。また、１級審判員認定審査は関東協会からの推薦がなければ受験することもできない貴重な審査であり、１級審判員の門は決して広くはない。

今年度の審査内容は筆記テスト、体力テスト、４試合の実技テスト（関東大学１部×２試合、関東社会人１部×２試合）であった。筆記テストと体力テストは自分の準備が結果に反映するもので自分としては難しいものではなかったが、最難関は実技テストであった。公式戦でのパフォーマンスを審査するため、一瞬の判断の間違いが不合格になってしまう厳しいテストである。自分に割り当てられた２試合目の試合は関東リーグの優勝を争う大一番であった。選手も普段以上に気持ちが入っていて、関東リーグでは珍しく1,000人以上の観客がいる中での審査であった。この試合で審判員としてサッカーに関わる者として忘れてはいけないことに気づくことができた。それは、プレイヤーズファーストである。選手のために安全な環境を整え、その場にいる全ての人々にサッカーを楽しんでもらうために審判員は存在をする。自分が1級審査に合格すること最優先に考えてしまい、大切なことを見失っていたと反省している。これをきっかけに以降の３試合目、４試合目は選手のことを第一に考えて臨んだ結果、実技テストを合格することができた。

３年前、23歳のときに選手から審判員になる決

意をした。多くの方々のご指導により、３年で１級審判員になることができた。選手時代と同じようにサッカーに情熱を注ぎ、人生を掛けて１級審判員を目指したこの３年でサッカーがもっと好きになった。Ｊリーガーの平均引退年齢は25～26歳といわれている。現在、私は26歳。これからＪリーグの舞台を目指せることは幸せなことである。

左胸にゴールドワッペンを付けて１級審判員として活動する2018年。初めは全国大会等で経験を積み、JFLを担当できるカテゴリー入りを目指すことになる。活動範囲も関東から全国各地に広がる。支えてくれる妻や職場の方々に感謝を忘れずに活動していきたい。

審判員は、誰もが楽しめる「魅力的なサッカー」の実現に関わる重要な存在である。サッカーに携わる全ての人を心から尊重し、誰もが「本当にいい試合だった」と笑顔で喜びを分かち合えるよう、サッカーと選手のために今後も全力で審判活動に取り組む。

『相樂亨氏より昇級記念のホイッスルの授与』

審判活動の魅力について

サッカー２級審判員　　廣田　聡

私が本格的に審判活動を始めて、10年が経過しました。主に、県社会人リーグの試合に派遣され、審判活動に取組んでいます。少年サッカーの帯同審判を経験したことがきっかけで「審判の世界」に足を踏み入れました。49歳になりますが、もっと上達したい、注目される大会の試合を担当したい、自分自身の（審判）スキルアップを図りたいと言った願望が、次から次に湧いて出てきます。

試合に備えてのトレーニングは当然のことでありますが、事前準備がどれほど大切であるか、最近、特に感じるようになりました。試合中に戸惑った出来事が起きた時や、審判活動をする上での悩み事は、共に活動している審判仲間や審判インストラクターの方々に相談し、問題を共有して早期に解決するようにしています。私自身、まだまだ経験不足で努力が必要だと感じている部分も正直なところあります。選手の皆さんの“熱いプレー”に対して正しい判定をすることが“自分の仕事”であるし、そのことが栃木県サッカーのレベルを上げることにも繋がると思っています。また、審判活動に取組むようになって、若手のユース審判員や経験豊富なベテラン審判員の皆さんとも知り合うことができました。年齢や職業は異なりますが「サッカーが大好き」な仲間です。そんな仲間と組んで審判を担当するのですから、審判員は孤独ではないと言うことです。仲間と共に、充実した審判活動となるよう、これからも毎日を無駄にすることなく、精進したいと思います。

近頃では、冗談で「本業は審判ですよね」と言われるぐらい、すっかり審判活動が生活の中心に位置づけられています。先読みして仕事の段取りを組みつつ、数ヶ月先までの審判の予定を入れています。審判をやって何が楽しいの？辛いことはないの？等々、思っている方もいると思いますが、審判の魅力はやればやるほど「魅せられる」と言うことです。

読者の皆さんも、私たちと一緒に審判活動を楽しみませんか。

栃木県サッカー協会には、多くの審判指導者がいらっしゃいます。安心して、手を挙げていただけたらと思います。

最後に、日頃ご指導いただいている皆様に心から感謝申し上げるとともに、今後とも栃木県サッカーの発展に、微力ながら貢献したいと思っています。

『関東シニア大会にて』

サッカー2級審判インストラクター合格

関東インストラクター　　舘岡　孝弘

2017年８月にJFAフットボールフューチャープログラムトレセン研修会に参加している最中に、鈴木武明審判委員長から「２級審判インストラクター試験を受験してみないか？」と、打診がありました。研修中という事もあり、「少し時間を下さい。」と言ったところ、研修会が終わる日までに考えておいてとのことでした。研修会でプレゼンテーションをする機会があり、鈴木委員長（JFA１級インストラクター）、や藤ヶ崎茨城県審判委員長（JFA１級インストラクター）に「良かったよ」とお褒めの言葉をいただきました。鈴木委員長からは「これで受験できるね。」と言って頂きました。不安もありましたが、頑張って受験してみようと決意しました。試験日は９月16日から17日の日程で行われると連絡を受け、栃木県からは黒澤幸樹氏と私の２名が受験することになりました。

審査内容
一次審査…書類審査（これまでの審判実績及び指導実績）、事前課題
２次審査…①アセスメントレポート評価
②プレゼンテーション
③競技規則テスト
④審判員に対する指導実践
⑤模擬フィードバック指導実践
これらの項目を神奈川県保土ヶ谷サッカー場、湘南台文化センターで審査を行いました。

当日は保土ヶ谷サッカー場に10時半に集合し、岸関東サッカー協会インストラクター部長のお話から始まり、インストラクター部の方々のあいさつや日程、試験内容の説明がありました。最初の試験項目は関東大学リーグ２部の試合で早稲田大学　対　神奈川大学　の試合の主審のアセスメントをしました。前半２－０、後半４－０と早稲田大学の圧勝でした。点数と試合の内容は違いがあり、その中でのレフェリングの評価は大変難しく感じました。

試験項目２のプレゼンテーション試験では事前に映像が送られてきており、この映像を使用してパワーポイントを作成しなければならないものでした。課題は「フリーキックのマネジメント」というもので、受験者を審判員として見立てプレゼンテーションをしました。ペース配分、声の大きさ、強弱、間の取り方やタイミングなど、時間が許す限り練習はしましたが、やはり本番は最高に緊張しました。

会場を湘南台文化センターに場所を移し、19時半から試験項目３として競技規則テストを行いました。時間は50分、内容は記述式で競技規則がバランスよく出題されていて私にとっては非常に難しい問題でした。

試験項目４の審判員に対する指導実践はこれまでの経験を活かし「私ならこう指導する」というレポートを空いている時間を利用して作成するもので、21時までには提出しなくてはならず、大変苦労をしました。

翌日、７時に起床し、朝食やチェックアウトを済ませ、９時から最終項目の模擬フィードバックです。インストラクターの方に指導される審判員役になってもらい、試合のフィードバックを行いました。審判員のレフェリングを観て率直な感想と良かった点、改善点を指導し、15分ぐらいで話をまとめる技術などが必要でした。普段指導しているときとは違った雰囲気で会場も緊張感でいっぱいでした。試験終了後は、受験者は控室に入ることが出来るのですが、私も含め、入ってくる受験者全員の顔が暗いことが印象的でした。しかし、試験が終わった安堵感から、最後には他の受験者と笑い話もしました。

すべての試験が終了し、今後の事務連絡と結果発表の日程などの連絡を受け、最後に閉講式を行いました。黒澤氏といろいろ反省しているうちに「これはだめだ」と思いながら帰路につきました

そして約一か月後の10月15日に鈴木委員長より電話があり、「本日の関東審判委員会にて審査が行われて、昇級が承認された」と連絡を受けました。

非常に難しい試験で、自信もなかったので正直信じられず、なかなか実感がわきませんでしたが、時間が経つにつれて嬉しさがこみ上げてきました。

2018年４月１日より、サッカー２級審判インストラクターとして活動することになりますが、まずは栃木県の審判員のためにどんな形で貢献できるかを模索していきたいと思っております。まだまだ、栃木県の諸先輩方に比べたら足元にも及びませんが、少しでも追いつき栃木県のサッカー界に寄与できるように頑張る所存です。これからもよろしくお願い致します。

『試合前に準備したいこと』

３級審判インストラクター　　斉藤 清美

試合前夜。主審を担当しているが持っている笛が全部鳴らない。あるいは、会場へ着いたものの試合終了後だった。ゾッとして飛び起きる。そんなことが今でも時々あります。
子供の頃から緊張すると直ぐにお腹をこわすような体質でした。割当てられた試合に向けて万全に準備できていれば、このようなことも無くなるのでしょうか。

準備としてまずは体力です。選手たちは殆ど毎日練習していると思います。仕事も家事もあるので、なかなかそうはいきませんが、自チームのサッカーの練習があるときは思い切り走るようにしています。ボールが外に出た時も無駄なダッシュです。毎日の犬の散歩では階段100段以上を駆け上がります。審判の動きは全力疾走したあと急に止まったり、サイドステップやバックステップを使うことも多いので、一定スピードのランニングよりも、ある程度身体に負荷を掛けるようなトレーニングのほうが有効ではないかと感じます。

そして競技規則。ご存知のように2016年に大幅に改正されましたが、その後もペナルティーキックを与えた場合の懲戒の有無や、オフサイドポジションでのプレーや相手競技者への影響など、施行された後の実態や整合性を鑑みて細かい部分の改正が行われています。ルールブックを開くたびに新しい発見があるような感覚で、なかなか自分のものにできていません。適用ミスだけは絶対に起こさないとの思いで、試合前日にも確認します。

チームの情報も出来る限り集めるようにしています。得意な攻撃パターンが分かればイメージトレーニングもしやすいですし、得点ランキング上位の選手がいたりすればゴール前での位置のポイントを絞ることも可能です。ただ気をつけなければならいのは先入観を持ちすぎないこと。試合中は常に、競技者は次にどんなプレーをするか、何処へボールが繋がるか、どんなファウルが起きそうか。あらゆる可能性を予測して自分の動きだしに反映させ、争点を良い角度で監視しなければなりません。思いこみが激しいと極端な行動に出て失敗することも多くなるので、その辺のバランスをとることも重要であると思います。

常日頃からサッカー観を鍛えることも必要です。私は数分でもよいので録画した試合を毎日観るようにしています。プロの審判の感覚に近づけたい気持ちもありますし、画面ではファウルが容易に判断できるのに主審はなぜ取れなかったのか。そのようなシーンがあるときは何度も再生し直し主審と副審の位置や視界、サポートする方法はなかったかなど自分なりに分析をしてみます。自分の判定に直ぐに反映できることばかりではありませんが、日々の積み重ねが自信に繋がっていくものと信じて行っています。

予期予測ができたとしてもカウンター攻撃に追い付けなかったり、目線を切ってしまってアフターファウルを見逃したりすることが長い試合時間のなかでは出てきてしまいます。そんな事態に備えるためにも、当日の審判団の打合せは重要な準備になります。チーム情報の共有に始まり、方向の指し違いが無いようにするための意思の伝え方、主審サイドと副審サイドの優先権をどうするか、判定基準やペナルティーエリア内の反則などについて端的に話合います。打合せで想定した場面が実際に起きたなんていうことも、一度や二度ではありません。

またフィールドチェックをしながら会場の雰囲気を感じたり、運営スタッフとのコミュニケーションも欠かせません。審判団でアップ運動をしながらモチベーションを高めていき、お互いに握手を交わしたら、あとは『自分にできることを普段通りに行えばいい。』と念じつつ、試合開始の笛を思いきり吹くだけです。

『仲間を増やしたい』
先日行われた高校女子選手権、選手たちの気持ちの入ったプレーに一瞬たりとも見逃せない思いで観戦された方も多かったのではないかと思います。また球際の激しいプレーに対しての判断や判定に対する選手やベンチからのアプローチにも、毅然とした態度で対応している審判団に、感心された方も少なからずいたのではないでしょうか。

その他女子選手権の全国大会やなでしこリーグについても、殆どの試合を女子のみの審判団で運営されています。では、栃木県ではどうでしょうか。県リーグなどに於いて女子と男子の割合は１対３といったところでしょうか。それよりも少ないかもしれません。

審判資格取得者は毎年ある程度の人数の実績はあると思うのですが、実際に活動している審判は同じ顔ぶれ。なかなか新しい人材が発掘できていないのが現状です。実践の初期の段階で「自分には無理」と諦めてしまう人も多いと聞きます。理由としては走れない、ルールが理解できないなどがあると思いますが、「選手に文句を言われるから辛い」というような精神面でのダメージのほうが大きいかもしれません。「選手もチームもその都度自分たちの有利になることを主張するのは当り前。あまり気にしないで堂々とやってください。」私も後ろ向きな気持ちになった時、指導者のこの言葉を思い出して『次のプレーに集中！』と切り替えるようにしていま

す。始めは難しいかもしれませんが、心にも癖がつけられるようなると思います。そうして、どんなことでも頑張って続けていると、ご褒美を貰える瞬間がやってきます。それは小さな成功体験です。際どいゴールに追い付いて判断できた。もどりオフサイドが取れた。誰もが納得できるカードが出せた。PKが取れた。などの成功体験が試合の中で段々と増えるようになり、自信に繋がる。試合終了後に負けたチームも審判団も「やりきった」という気持ちで握手することができたなら、それは何ものにも代えられない喜びとなり、清々しさと充実感で一杯になります。

オフサイドルールも分からず、ただ走れるというだけで飛び込んだ世界ですから、私も初めは失敗の連続でした。帰宅してから猛省し、それでも気持ちが収まらず湯船に沈んだことも何度もあります。それでも続けてこられたのは、誰もが簡単に出来ることではないからだと思います。結婚して一時期、社会と遮断されているような鬱々とした心境に陥り、自分の存在価値はどこにあるのかと悩んだこともあった私は、審判にその価値を見出し、人から求められる人間になりたいと思いました。話が重くなって恐縮ですが、要は負けず嫌いなんです。サッカーに関わっている方々は一様にこの傾向が強いのではないでしょうか。だから初めの段階で諦めてしまうのは非常に勿体ないことだと思います。

また選手として上を目指すことが難しくなったとしても、ずっとサッカーに関わっていきたいと考えている方も多いでしょう。指導者やトレーナー、チーム運営に携わるなど選択肢は沢山あると思いますが、選手と同じフィールドに立てるのは審判だけです。トップを目指せる年代であれば、世界の舞台に立てるかもしれない。そんな特別な選択肢であることに気付いてもらいたいです。

審判に興味のある方、県リーグなどで私を見かけたら是非、声を掛けて下さい。栃木県は審判活動を支援する体勢も充実しています。よろしくお願い致します。

『2017年度サッカーインストラクター講習会』

「第41回全日本少年サッカー大会に参加して」

栃木県ユース審判員
真岡高校１年　橋本紫音

僕は、この度、第41回少年サッカー大会U-18審判研修会に参加させていただきました。この大会での全体としてのテーマは「大会を成功させる」、そして審判団としてのテーマは「課題にチャレンジ」でした。僕は、予選グループの主審を３試合、補助審を３試合担当させていただきました。この主審の３試合を通して、テーマである課題に積極的にチャレンジしました。それに加え、講義で言われた２つの点を意識しました。

講義では、まず正確な判定を下す事を強く言われました。これが１つ目です。正しいポジショニングをしても、正しい判定が出来なければいけないという事、審判とは何をするためにいるのかという事について深く考えさせられました。僕自身ポジショニングを意識しすぎて判定がおろそかになってしまう時があるので、強く意識しなければならないと感じました。

２つ目は、「見る」という事です。いつ、どこで、何を、誰が、どのようにして、というふうに５Ｗ１Ｈを使用してしっかりと見ることの大切さを学びました。プラクティカルの時は、この「見る」という事をテーマにし、正当なチャージや手を使用したプレーの判定を行いました。

以上の２点を意識し、試合に臨みました。毎試合緊張感があり、この大会の雰囲気を感じました。試合中はプレーしている選手達とコミュニケーションを取る事ができ、自分自身でもレフェリングを楽しめました。大会中、僕は小学生のレベルの高さを感じました。それと共に審判のレベルも上がっていかなければならないということを思いました。

「全日本少年サッカー大会にて」後方中央が筆者

この研修会を通じて、新たな課題を発見や新たな知識や技術を吸収でき、とても良い経験が出来ました。このことを次に生かし、更に技術を向上させていきたいです。

オセアニア・サッカー事情

サッカー２級審判員　上野　哲

スタジアムでの観戦は指導者にとっても審判にとってもテレビ観戦では得られない多くのものをもたらしてくれます。特に海外においては、スタジアムやサッカー場で観戦して初めてわかることがたくさんあります。

私は2012年以降、オセアニア地域でカテゴリーが異なる7試合を観戦する機会に恵まれました。いずれの地域もイングランド統治下時代が長く、サッカーのスタイルもイングランドの影響を強く受けています。今回幸運にも機会を与えていただいたので、私の経験の範囲内ではありますが、日本とは異なるオセアニアのサッカー事情について書かせていただきます。

【フィジー共和国】

私が４級審判資格を初めて取得した1991年の「競技規則」の「第１条：競技場」の項には「競技場は･･･、幅12センチメートル以下の境界線によって描き、“V字溝で区画”してはならない」と書かれていました。この「V字項の区画」が何を意味するのかについてはすでにいくつかの書籍でも議論されていますが、私もフィジーで高校生の交流戦を観た時に初めてこの意味を理解しました。写真にあるように、フィジーではラインは白線で描くものではなく、ラインの部分の芝を剥ぎ取って（刈り込んで）描くものだったのです。競技規則には「白色」と示されていないことにも初めて合点がいきました。

気候が原因か、試合のカテゴリーの問題かは不明ですが、フィジーでは審判は蛍光色の審判服を着用しており、黒の審判服を着たレフェリーは１人もいませんでした。

ラインは「描く」ものではなく「剥ぐ」ものだった！

ナンディ市内の高校交流戦(2016年12月)

【ニュージーランド】

郊外のかなり田舎感あふれる街でおこなわれた、ニュージーランド・フットボール・チャンピオンシップの試合を２試合観戦しました。このリーグは国内最高峰リーグでプロとセミプロの10チームで構成されており、レギュラーシーズンとプレーオフから成っています。ニュージーランドでは（フィジーも同様でした）どんな小さな街にも観客席のあるラグビー場があり、サッカー場もその影響を色濃く受けています。そのため、陸上のトラックはないのですが、観客席とピッチの間に中途半端な距離があります（グリーンスタジアムのほうが観客席とピッチの距離は近い）。

プレーについては個の力が強く、ガツンと音がするほど身体をぶつけ合う１対１は見物でした。地元チームであるWaiBOP UnitedにはShota Nakagawaという日本人選手が所属していましたが、残念なことにこの試合ではピッチに立つことはありませんでした。

この試合の主審のIsaac Trevis氏のシグナルは指先までピシッとしていて美しさを感じました。また

マウンガヌイ山リンクス通りサッカー場

副審２を務めたNick Van der Salm氏はニュージーランドで最年少でFIFA副審になった人で、余裕の表情でタッチライン際を走っていました。

WaiBOP United 対 Wanderers SC（2014年11月）
（現在は両チームとも降格している）

【オーストラリア連邦】

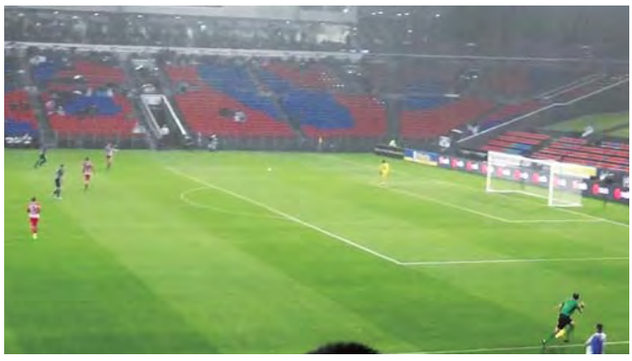
国内最高峰のプロサッカーリーグはヒュンダイ・Aリーグと呼ばれていますが、隣国のニュージーランドからも１チーム参戦しています。スタジアムは１万人規模のものから4万人規模のものまで様々です。いずれもラグビー場と兼用のスタジアムで、オーロラビジョンも完備されています。もちろん競技場にトラックはありません。Aリーグには「ビデオ副審（Video Assistant Referee）」が導入されているため、審判団は５人です。

オーストラリアではサッカーよりも圧倒的にラグビーの人気のほうが高いと言われていますが、それでも1試合8,000人から１万人の観客が入っています。

日本と異なるのは（ヨーロッパでも同様だと聞いたことがあります）主審がきわどい判定をした時に、間髪を入れずその「瞬間」を様々な角度から撮影した映像がオーロラビジョンで何度も流れることです。その映像を見て、きわどい場面を主審が正確に判定していたことがわかったら主審に拍手、逆にワンタッチなどを見逃したりして誤った判定をしていたら（スローで何度も映し出される）、すぐブーイングするというのが観客の反応です。ただ、そのブーイングも強烈な非難を帯びた感じではなく「しっかりしろよ～」という感じで、レフェリーも苦笑いして、それで終わりでした。

またプレーについては、手を用いた反則はほぼ皆無でした。ヘディングの競り合い時の反則もほとんどありません。審判も基本に極めて忠実で、特に副審については本当に愚直に走っていました。ハーフタイムのピッチはアトラクションの実施とともに、子どもたちに開放してミニゲームをさせているのも、日本とは異なる新鮮な点でした。

メルボルンAAMIパーク（2013年12月）。
観客席最前列からピッチまでは手を伸ばせば控え選手に届きそうな距離。



最終ライン裏に出たボールを全力で追う
副審Andrej Giev氏。
マクドナルド・ヨナス・スタジアム（2017年12月）

レフェリー・ハートフル コミュニケーション

県審判委員会総務部　上野　哲

年の暮れも押し迫った12月23日、県内で審判活動に積極的に関わっている審判員やインストラクターたち総勢55名が宇都宮市内に集まり、「レフェリー・ハートフルコミュニケーション」が盛大に開催されました。

選手やスタッフはチーム一丸となって試合に臨みますが、私たち審判も、主審、副審、第四の審判員の４人で「チーム」を作って常に試合に臨んでいます。審判も選手と同様、うまくいく時もあればいかない時もありますし、選手やスタッフに助けられることも多くありますが、やはり最も信頼して強い絆で結ばれていると感じるのは、その日の試合でチームを組む審判仲間です。この強い

絆を保つため、毎年暮れに県審判委員会が音頭を取り、審判仲間交流会、別名「レフェリー・ハートフルコミュニケーション」を開催しています。

今年は、本号の別の箇所でも書かれていますが、長峯滉希氏がサッカー１級審判員に、また黒澤幸樹氏と舘岡孝弘氏が２級審判インストラクターに昇級され、また本県の相樂亨氏が９回目となるＪリーグ最優秀副審賞を受賞されるなど、おめでたいことが多い１年でした。この日も審判仲間の前で盛大に表彰がおこなわれました。表彰時の挨拶で、長峯氏は周囲の支えへの感謝の気持ちと高いレベルにあっても自分らしさを保つ意欲を、また黒澤氏と舘岡氏は後進の育成を通じて栃木県の審判界に恩返しする意欲を表明されました。

また４回目となる「十河正博賞」は、県審判委員会インストラクター部長として長年審判指導に携わってきた坪山克則氏に授与されました。この賞は2014年３月に急逝された元国際審判員で前・県協会審判委員長であった十河正博氏の功績を称え、意思を継ぐために作られた賞で、その年に最も県の審判界に貢献した人に与えられます。坪山氏は受賞の挨拶で、２級審判昇級時に十河氏から受けた心温まる配慮について触れ、今後も後進の育成に取り組んでいくことを誓いました。

審判員が集まる会合の特徴は早い時間に始まり、早い時間に終わることです。理由は単純で、多くの審判員は翌日に割当を受けている場合が多く、体調管理を含めてその準備をしなければならないからです。この日も試合会場から直接駆けつけた審判もおり、また明朝９時半から審判担当する人もいたため、来年も審判チームとして強く固い絆を保つことを約束して20時過ぎに解散となりました。

選考委員会メンバーと共に受賞を喜ぶ坪山克則氏

第13回栃木県フットボールカンファレンスについて

栃木ＦＡチーフインストラクター
槙　剛

平成30年２月４日（日）、宇都宮市文化会館にて第13回栃木県フットボールカンファレンスが行われた。テーマは「栃木県のサッカー発展のためにできること」～いちご一会とちぎ国体に向けて～とし、約300名の指導者が一堂に会し講演、各種発表、座談会などを見て聞いていただいた。

まずオープニングでは、県協会橋本健一副会長より御挨拶いただき、いちご一会とちぎ国体での国体総合優勝を目標にアクションプランを掲げていることなどお話しいただいた。

続いて、基調講演では、JFAインストラクター有馬賢二氏より「AFC　U-16選手権予選2018報告育成で大切に思うこと」と題し、この年代において世界で戦うために必要なことや世界との差についてお話いただいた。全般としては個のレベルを上げることを提言され、攻撃では技術の質の追求とプレースピードを上げるための判断のスピードを上げること、守備ではボールを奪いきるために１対１の強さ、球際の強さが求められるなどをお話いただいた。

その後は、栃木県U-15トレセンチーフの金子文三氏から「栃木県U-15欧州（ドイツ・スペイン）遠征報告」と題し、８月中旬から約２週間の遠征の報告発表があった。ドイツ・スペインの同年代のクラブとの試合や現地コーチによる指導から学んだこと、ブンデスリーガとリーガエスパニョーラの試合観戦を通して学んだことについてお話いただいた。テクニカルでスピーディーでタフな選手を育成するために必要なことは何かについても触れられ、世界基準で見た時に栃木の育成はどうあるべきか考えさせる内容だった。

午後最後は、栃木県技術委員会女子技術委員長の手塚貴子氏から「栃木県女子選手普及育成強化の現在地」と題し、栃木県女子選手の普及育成強化の現状についてお話いただいた。JFAでは女子の普及育成強化において「なでしこVISION」を策定し３つの目標を定めていることにも触れられ、また日本全国的な課題として中学生年代の育成があり、これは栃木県においても同様で喫緊の課題だということもお話いただいた。

午後の最初は「2022年いちご一会栃木国体に向けた取り組み」と題し座談会が行われた。槙が司会となり、栃木県技術委員会強化部長の臼井紀仁氏、栃木県１種委員長の鈴木篤氏、JFA女子委員会

副委員長（栃木県女子技術委員長）の手塚貴子氏、指導者養成担当の大牧稔氏の４名の方々に登壇していただいた。2022年に栃木県で行われる国体に向けての育成強化策について、少年男子、成年男子、女子の各カテゴリーに指導者養成も合わせ、それぞれの立場、部よりお話いただいた。出席いただいた方々に質問や御意見をもっといただければ良かったという課題は残ったが、2022年に行われる国体に向けてどのように動き出しているのかということ、具体的には選手育成強化、スタッフ体制の構築などをお示しできる良い機会となったと考えている。私槙より「2022年はすぐにやって来ると思うので、栃木県の指導者の皆さんで力を合わせてやっていきましょう」とお話させていただき、座談会を締めくくった。

最後は株式会社栃木サッカークラブ代表取締役社長橋本大輔氏より「降格から学んだクラブの課題と今後の成長について」と題し、Ｊ３降格からＪ２昇格までの過程の中で栃木SCというクラブがどのような取り組みをして成長してきたのか、また、今後クラブのミッション、フィロソフィー、バリューを定め、さらに成長していくことなどをお話いただいた。これまでサッカー指導者としてはあまり聞くことができない経営目線での内容で大変勉強になった。

以上が今回の第13回栃木県カンファレンスで行われた内容と感想であるが、今回は、５年後栃木県で行われる国体に向けての普及育成強化をメインにさまざまな角度からお話いただいた。今後はこのカンファレンスが国体強化含めた栃木県サッカーの発展に寄与できるよう、また、指導者の皆様の良い研修の場としてより有意義な機会になるよう努めていきたいと考える。

2017年度　（公社）栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名（敬称略）　2018年３月26日現在

奥澤　直人
FCグランディール宇都宮
ミドリ薬局
宇都宮大学サッカー部OB会
株式会社　極東体育施設
ユー福祉タクシー
FC西那須21アストロ
鹿沼フットボールクラブOB会
NPO法人たかはら那須スポーツクラブ
株式会社　栃木サッカークラブ
石﨑　洋子
猪瀬　和人
円印刷株式会社
揚茜クラブ
SAKURA FOOTBALL CLUB
安達　賢二
野木SSS
日光スポーツクラブ

人と自然が調和した街づくり目指す
鈴運メンテック株式会社

○一般廃棄物の収集運搬
○産業廃棄物の収集運搬
○重機･一般貨物の運搬
○倉庫の賃貸及び保管管理
○高速道路の維持管理

〒320-0857
宇都宮市鶴田2丁目2番10号
TEL 028-648-6241（代）
FAX 028-648-8318
http://www.suzuun.co.jp

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

■ 発行　公益社団法人 栃木県サッカー協会
■ 編集　公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
■ 発行責任者　星野務、村上富士夫
■ 印刷所　円印刷株式会社

申込期間　2018.8.31

公益社団法人 栃木県サッカー協会 宛　　FAX 028－688－8400

2018年度　賛助会員加入申込書

公益社団法人栃木県サッカー協会の賛助会員に加入することを申し込みます。

①団体(法人)名 (ホームページ等掲載名)	(ホームページ等掲載名:　　)
代 表 者 名	
又は	
②個人氏名(チーム名) (ホームページ等掲載名)	(ホームページ等掲載名:　　)
チームで加入の場合 代 表 者 名	
住　　所	〒
電 話 番 号	－　　－
申 込 口 数	1. 団体　　口　　金　　円 2. 個人　　口　　金　　円 ※該当区分に○をお願い致します。

協会使用欄	会員証NO.			

賛助会員募集のご案内

県民の皆様には、日頃から公益社団法人栃木県サッカー協会の諸事業の運営について、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

本協会は、県下のサッカースポーツの統括団体として、県民のスポーツ文化の向上と健康増進を目標に、活気にあふれ夢の持てる栃木県をつくるため、キッズ・少年・中学・高校・社会人・大学・クラブユース・女子・シニアの各種別を含めたサッカー人口の底辺拡大、指導者・審判員の資質向上、自治体との協力による施設拡充など、多様化する県民のスポーツに対するニーズに応えるべく、各種の事業を推進しているところです。

つきましては、事業充実を図るため、この趣旨をご理解のうえ、賛助会への加入をお願いするとともに、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

賛助会員

・団体（法人）会員　一口　30,000円／年
・個人会員　一口　10,000円／年

入会方法

賛助会費を下記口座にお振込みいただき、入会申込書（裏面）をご記入の上、FAXまたは郵送してください。
また、公式サイトの賛助会員募集のメールフォームからも受け付けています。
（入金確認後、会員証をお送りします）

会員特典

- **会員証の発行**（毎年更新）
- **広告掲載**　各種大会プログラムにお名前を掲載いたします。
  法人会員は当協会ＨＰに広告バナーを掲載することができます。
- **広報紙送付**　当協会の広報紙（2回／年発行）をお送りいたします。
- **日本代表のカレンダーを差し上げます。**
- **県サッカー協会主催及び主管大会の有料試合を無料観戦できます。**（会員証提示）

会費振込口座
栃木銀行本店　普通預金　３１５０７７１　公益社団法人栃木県サッカー協会

お問合せ先：公益社団法人　栃木県サッカー協会
〒320-0857　栃木県宇都宮市鶴田2-2-10
TEL　028-688-8411　　FAX　028-688-8400